

VOL  
161  
2018

# スカムニペ

大雪山を世界遺産に！ 石狩川を野生のサケのふるさとに！

## 目 次

Event Now ! 北海道サケ会議.....	2
創立 45 周年.....	3
創立 45 周年記事.....	4
講演要録 大雪山の自然を語る.....	5
私の風景 ライチョウ夫婦と .....	8
短報 大雪山講座「ひぐま大学」 .....	9
さけゼミ・サケの会 .....	10
自然学園「G F A」 .....	11
連載 ぎいちのサケ談義.....	12
大規模林道跡地調査.....	13
お薦め BOOK 「北海道の草花」 .....	14
サケの会員会議講演記事 .....	14
編集 MEMO .....	14
2018 定期総会報告.....	15
2017 活動報告.....	15
2018 活動計画.....	19
2017 収支決算.....	21
2018 予算.....	22
2018 役員 .....	22
活動の記録 (2018.1~7) .....	23
行事案内 カムイチエプノミ・石狩川クリーンウォーク .....	24
サケのふるさとを訪ねて.....	24

大雪と石狩の自然を守る会

2018年8月10日発行  
発行人:寺島一男  
〒078-8302 旭川市緑が丘2-1  
連絡先:0166-65-1940(寺島)  
0166-61-3355(渡辺)  
郵便振替口座:02880-8-14464  
年会費:個人会員 3000円  
家族会員 4000円





## 北海道サケ会議 旭川で開催 地域再考の大きな力に

45周年記念行事とともに、2018年の懸案の大きな行事だった北海道サケ会議が、5月26~27日の両日にわたって旭川市で開かれた。真夏を思わせる暑い異例の天気となったが、現地見学会を含む野外行事も抱えて天候不安があっただけにむしろ歓迎すべき天気となった。

北海道サケ会議は、北海道サケネットワーク（以下サケネット）が、総会に合わせて毎年開いて行事で、今年で13回目になる。旭川では2011年に開催しており、二度目の開催となった。サケネットは、サケと人との関わりを考え、サケをシンボルに豊かなふるさとを守り育てようと結成された全道規模の組織で、理念に賛同する市民団体・学校・大学・水族館・科学館・研究機関・水産試験場・行政機関・漁業協同組合・水産会社など、二十数団体が参加している。

サケで共通するとはいえ、これほど多種多様な団体・組織が自発的な組織として連携するのは珍しい。多様で幅広いということは、多様な価値と多彩な活動を生み出す利点もあるが、加盟する団体や組織の目的や活動体制が大きく違うということであり、実際の活動として様々な問題を抱えることも確かである。往々にしてその幅の広さが、ときにプロパガンダはあれど具体的には何もできない存在になることもある。

サケネットの場合も正直なところ先行きはよく見えないが、行政や業界の肝いりでもなく財政的なヒモもなく、自発的に結びついているところが次の世界を期待させている。「豊かなふるさと」を守り育てるために、どのような協力がどのような形ができるのか。そ

れを無理なく息長く続けるにはどうしたらよいか、その課題に向き合うのがこのネットワークの立ち位置である。

現在、年に一度総会を開いて、サケを中心としたそれぞれの活動報告や地域の情報交換を行う一方、外部の関係者も交えてサケ会議を開き、サケに関わる研究や調査の報告、学校や地域における教育活動の発表、サケや河川の環境保全活動の報告、食文化や地域づくりの意見交換などをランダムに実施している。子どもを含めた市民が気軽に参加して、関心と興味を深められるよう、内容を難しくしないよう心がけられている。

ネットを利用したホームページの開設や、メールを利用したニュースレターの発行（年四回）、幅広い多様な記事を満載した会報の発行（年一回電子版）なども行っている。

豊かなふるさとづくりは、市民の力が原動力だ。そのためサケネットは、市民団体や市民組織を正会員として運営の中心に据え、研究機関や行政組織、学校や科学館・水族館等の公的機関は特別会員として、市民活動をサポートする運営体制にしている。財政面でも貧しくも自立した活動ができるよう、正会員の会費や寄付金等で賄っている。

今回のサケ会議は、「上川アイヌとサケ」と題した記念講演と、「子どもたちにサケを～なにをどう伝えるか」を主題にしたテーマトークが行われた。記念講演の講師は、今春から札幌大学教授になった前・旭川博物館長の瀬川拓郎さんである。瀬川さんはこれまで伝統的に語られてきたアイヌ民族の生活と文化を、考古学の分野か

ら北方世界に活躍するダイナミックな先住民族として脱皮させ、全国的に注目されている先進的な研究者だ。その研究の土台となつた上川アイヌと上川盆地のサケについて、克明に話され参加者の感銘を深めた。

テーマトークでは、北大名誉教授の浦野明央さんが話題提供を行い、北海道総合研究機構の河村博士さんがコーディネーターになって、岡村康寿さん（札幌豊平サケ科学館長）、千葉養子さん（とかち・帯広サケの会代表）、橋詰郁郎さん（大雪と石狩の自然を守る会サケゼミナール部長）、山田さんえさん（旭川いづみこども園教諭）、山田直佳さん（日本釣振興会北海道地区支部道北支部長）の5名がスピーカーとなって、経験に富んだ実績を基に意見発表を行って注目を浴びた。

翌日、忠別川をフィールドに現地見学会を実施した。北彩都・神楽岡公園・旭川市博物館などをコースに織り込み、内陸深く遡上する野生のサケの環境と現場をつぶさに見学した。忠別川のクリスタル橋付近では、遊泳する遅出のサケ稚魚の姿が確認されるなど、中身の濃い見学になった。

今回の会議を開催してみて、改めて旭川には生活・文化・歴史・自然の根底に、サケと密接なつながりを持った上川アイヌの心が息づいていることを認識させられた。この認識は石狩川を野生のサケのふるさとにしようとしている現在の活動はもちろんのこと、旭川の未来を考える上でも大きなヒントになったように思う。

寺島一男（大雪と石狩の自然を守る会・あさひかわサケの会代表）



## 45周年記念行事終了

### 講演・SNAP

創立 45 周年を迎えた記念行事が、去る 2 月 24 日旭川市クリスタルホール（創立 45 周年の歩み報告・大雪山フォーラム・創立 45 周年活動パネル写真展）と、レストラン・ブリミエール（記念祝賀

会）を会場に盛大にそして楽しく行われました。

行事を通じて長きにわたって運動を支えてくれた、多くの会員・団体・市民の皆さんと時を超えて心を通わせ合うことができました。

次の節目になる 50 周年を目指して、新たな活動を展開するエネルギーと勇気をいただきました。当日のスナップの一部と鮫島惇一郎さんの心に残る講演を再掲します。



# 開発と戦い 保護進める

「大雪と石狩の自然を守る会」結成45年 フォーラム開催

美瑛町と十勝管内新得町トムラウシを結ぶ「大雪縦貫道路」の建設反対をきっかけに旭川の市民団体「大雪と石狩の自然を守る会」が結成されて45年。自然保護と環境教育推進に携わる同会が2月24日に旭川市内で開いた「大雪山フォーラム」では、自然保護運動の先駆者たちが、開発の波と戦いながら運動を進めた思い出や苦労を語った。オホーツク管内斜里町の元町長午来昌さんによる講演や、植物学者の皎島惇一郎さんと元十勝自然保護協会会長の及川裕さんが交わした主な発言を紹介する。

(構成・佐藤元治)

元斜里町長・午来昌さん(81)

## 自然への畏敬学んで



田中角栄元首相の「列島改論」の時代、知床も、斜里町岩尾別地区に戦後人植した開拓農民の土地が原野商法の餌食となりました。「しげと」100平方地を買い戻し、乱開発を防ぐために始めました。1977年2月、当時の藤谷豊町長が「知床で夢を買いますか」と呼びかけると、全国から反響がありました。

高度成長期は開発一辺倒。62年に知床林道、63年に知床横断道路の工事が始まりましたが、土砂も樹木も谷底に投げ込むはずになりましたが、「自然保護で森が見えるか」とやじられました。今は変わりましたが、當時の當林局(現・北海道森林管理局)は「国有林は、自分の山だから何をやつてもいい」という態度でした。知床の

国有林伐採問題が起きたのも100平方が運動の隣接地でした。

開拓農家の3代目、国有林伐採反対を訴え1987年に町長となり、2007年までの在任中、知床の世界自然遺産登録(5年)に尽力。

植物学者・皎島惇一郎さん(92)

## 理念と記憶 子孫に伝える



東大雪の土幌高原道路(十勝管内土幌町一鹿追町然別湖畔)の反対運動に携わってきました。大雪山国立公園の第1種特別地域(十勝管内土幌町一鹿追町然別湖畔)の反対運動に携わってきました。大雪山国立公園の第1種特別地域で、天然記念物シマノクロウや氷河時代の生き残りとなる十勝周辺地域も保全すべき「すぐれた自然地域」に挙げたにもかかわらず、93年には未開通区間

元十勝自然保護協会会長・及川裕さん(80)

共感集めナキウサギ守る



札幌の旧制中学時代から大雪山系に通っています。最初に反対運動に加わったのは1958年に持ち上がった大雪横断道路(現在の大雪銀泉台線、旭川旭岳温泉道銀泉台線、旭川旭岳温泉泉總)。上川町層雲峯銀泉台から赤岳を通り、旭岳温泉に跨る自然が残っているのは、かつてここに暮らしていた人たちが自然と共に生きてきたからです。アイヌ民族の持つ自然への畏敬の念を学ばねばなりません。

文で取り上げてきました。自然の産物を「東三省の名付け親」の松浦武四郎は当時、役人や商人の横暴を告発していました。今年は北海道命名150年。こうした歴史も見直すべきです。

2・6%を全線トンネルで通す案が持ち上がりました。地元も建設推進と反対に割れました。建設推進を求める「土幌町開発と自然保護の会」という驚く名前の会もできました。しかし、「地表を損壊しなければ自然は守られる」と考えるのは大間違いです。地中に氷河期の名残の永久凍土があるから、ナキウサギが住めるのです。

結局、長期停滯事業を見直す「時のアセスメント」で99年に凍結されます。多くの人たちが自然保護に共感し、反対の声と一緒に挙げてくれた成果です。

かくして、「やれやれ」と思う間もなく出てきた計画が大雪縦貫道路(道道忠別清水線)でした。「大雪の自然を守る会」(現・大雪と石狩の自然を守る会)が旭川で発足し、札幌と新得でも同じ名前の会が反対運動の中心になりました。旭川側から美瑛川を、新得側からは十勝川を、新得側からは十勝川をさかのぼる現地調査で氣勢を上げたのを懐かしく思い出します。

結果、開発局側で計画を取り下げましたが、油断は禁物です。子どもたち孫たちで、自然保護運動の理念と、反対運動の記憶を伝えていくことが大切です。



## 講演要録

# 大雪の自然を語る

鮫島惇一郎

過日、大雪と石狩の自然を守る会から、創立 45 周年の行事を企画しているとお知らせをいただきました。大雪縦貫自動車道路問題を契機として立ち上がった「大雪と石狩の自然を守る会」でしたが、もう半世紀ちかくにもなるのかと、改めて過ぎ去った年月の出来事を辿っておりまます。

初めて大雪山に足を運んだのは、1942（昭和 17）年の夏であります。クラスメートの兄貴（北大予科生）たちが、愛山渓の登山事務所の手伝いに来ないか？というのです。藻岩山とか円山しか知らない者にとって、未知なるものへの好奇心と不安が詰まっていた年頃でしたから、すぐ承知です。今流にいえば、アルバイトのアルバイトといところでしょうか。薪割りと草刈り、入山証？の受け付けの手伝いぐらいだったのでしょうか。朝方、数人の登山客が宿から山へ行ってしまえば後は暇。

「……明日は旭岳へ連れて行ってやろう」と兄貴たちはいいます。朝を迎えました。頭の中まで染まるような薔薇色の空であります。沼の平、当麻乗越し、ピウケナイの沢、裾合平（兄貴たちが教えてくれました。高山植物がひっくり返され、岩が並べられ続いております。旭川師団の兵隊たちが砲を引いて演習行軍した跡だというのです）そして姿見の池、旭岳でした！

1944 年になります。札幌臨時教員養成所の学生であります。太平洋戦争は芳しくありません！ひょっとしたら何時赤紙が来るか解りません。せめてあの美しい大雪山の山々をこの眼に収めておきたいと出かけました。札幌を出た夜行列車は、上川に午前 2 時過ぎに停まります。しかし、駅で朝まで待っている手はない層雲峠まで歩いてしまいました。小函に行って、黒岳、北鎮岳、愛別岳、北海岳、旭岳、安足間と一回り。

赤紙は来ましたが、沖縄には行かずに終戦でした。熊本で部隊は解散？原爆で焼け野原になった広島。東京、青森、函館、そして函館本線を辿って札幌へ。狩太の真っ赤なヤマブドウの紅葉の歓迎！北海道にたどり着いたんだ！10 月も半ばであります。

改めて学生のつづきです。館脇操先生のお手伝いをするようになったのもこの頃からです。十勝岳、ニセイカウシュッペ、黒岳、小泉岳など（1947）でした。翌年になると十勝岳のアカエゾマツ林の調査を「しっかりやってこい！」ということになりました。非常に美しい整った林であることから考証林設定のため旭川営林局職員の方々のお手を借りながら、3~4 月にかけて方形区と帯状区の設定をしたのです。根元の直径が 80 センチもあったでしょうか。たったそれ一枚だけ背負って中茶屋まで下ろした日が何かなつかしいです。よく古い索道跡をスキーディング（転んで折角の大変な円板が壊れたら大変）無事に中茶屋に着いて安堵の胸を撫で下ろした記憶が生き生きと蘇ります（1948）。

夏には黒岳、高根ヶ原、トムラウシ山、化雲岳、松山温泉と旭川営林局、林業試験場北海道支場の錚々たる方々を交えた調査がありました。1949 年発行の「大雪山の植物」の基礎になる調査が続いたのです。

しかし、なにか大雪の山に心残りで、先生たちに別れを告げて黒岳の石室にもどります。管理人に請われるままに二週間ほど石室の手伝いをしたでしょうか。愉快な日々でした。

年が変わって 1949 年の夏休み、教室のスタッフを集めて大雪の山旅となりました。旭川で一同を見送ると次が待っていました。音更川と石狩川の源流域の調査がありました。もちろん親方は館脇先生です。十勝三股から岩間温泉、音更山や石狩岳、猛烈なブユとヤブ蚊に悩まされた森林調査がありました。ハイマツ帯のクルマユリ、小函の岸壁のコバコシャジン。あれもこれも懐かしいですね。

1950 年になると待っていたのが旭川で開催される北海道博覧会の手伝いであります。

会場の一角に大雪山の高山植物の写真と、できれば生の開花した実物を旭川市民に見せてやりたいのだということでした。先生や国有林の方々が知恵を出し合って決めたことはこうでした。

「まず根を傷めないように開花寸前の株を現地で堀り取り、蜜柑箱に収めて旭川まで丁寧に運ぶ。花が凋んだらまた蜜柑箱に収めて、もと生育していた場所に戻す」ということでした。お前のほかに手伝いの学生数人にも声をかけてある、というでした。頼むよ！といわれると、お断りするのはなにか躊躇いがありました。蜜柑箱しょってか？……あの黒岳の山道の上下か？……でも結局お引き受けすることになったのです。今となると数人の学生たちと山道を上下した日々がやはり懐かしいですね。なんだかんだといいながら、結局7月から9月はじめまで、学業そっちのけで大雪山域で寝泊りしていたことになったのです。

1951（昭和29）年になりました。長い間住み慣れた札幌から我が家が東京に移転することになりました。加えて我らが教室のメインテーマである「エンレイソウ植物の集団遺伝的解析」の総纏めにからねばなりませんでした。結構これが大変なんです。今年は大雪の山を歩く時間がなくなりました。でも年が明けると大がかりな企画が待っていました。

「石狩川源流原生林総合調査」（1932～54）といいました。松川恭佐さんを団長にして、森林植生半に館脇操先生、地質班に石川俊夫先生、その他気象や虫、樹病などの専門分野も加わった、翌年にもかけた一大プロジェクトとなったのです。その一端を担うことになったのが、音更山、石狩岳、沼の原、石狩川源流などの植生（三角亨さん）や地質（勝井義雄さん）たちとの調査のはじまりでした。石狩川源流も音更の沢も、ペテトク、ヌタブヤンベツ、クチャウンベツなどの森林はまだまだ原生的姿を留め感激したのです。次の年は三国山です。ヒグマが食い散らかしたラワンブキの林、岩魚やヤチブキなどはまたとない山の恵みがありました。

学生稼業も忙しいといいながらも大雪の魅力には勝てません、やはり大雪の山々は長逗留です。決して遊び惚けていたわけではありません。時間さえあれば高山植物の群落調査と植物画を描いておりました。時には山岳画家や古い友達の案内なども仰せつかることもあったのです。スコップを担いで中岳温泉？を数回訪ねたことも懐かしい記憶です。

さて、世の中なにが起きるか解りません。9月になりました。北大山岳会（山好き職員の会）の例会で空沼岳登山です。空沼小屋に一泊、そして札幌岳を廻ろうということでしたが、26日はどうも雲行きが怪しいようです。空沼岳頂上からの帰りです。風も出てまいりましたがどうしても札幌岳を越えて帰ろうというグループがありました。付き合うことにしたのですが、頂上越えは酷い風になりました。雨も大変です。降りはもう小川でした。風は唸る、大枝は折れて落ちる！ただごとではありません。

定山渓駅まで辿り着いたときはずぶ濡れでしたが、定鉄電車は動いておりました。札幌の街は停電！やっと下宿まで着いてラジオで知ったのが岩内の大火でした。いわゆる洞爺丸台風だったので。テレビ？そんな気のきいたもの、まだあるわけがありません。あの悲惨な報道が続きました。

国有林の上川管内といえば石狩川源流となりましょうが、1300万m<sup>3</sup>とい途方もない風倒木が発生したのです。ついこの間まで原始性を保っていた美林が、一日の台風で壊滅したのです。あの「石狩川源流原生林総合調査」は永遠に受け継がれていく墓標となりましょう。

この被害が北海道全域に及んだことはいうまでもありません。そしてどのようにこれらの風倒木を処理するか、難題です。頭を痛めていた林野庁が方針を発表いたします。野鼠の対策、木喰虫にBHC、DDTの空中散布（人だけでは対応できません）などに頼るしかなかったのです。被害木を運搬するにはトラック輸送、その為には搬出路の整備、販売などまで細かく対応しなければなりません。三年間の課題となつたようです。

搬出路をつくるにしても、あまたの沢に名があるわけではありません便利なように名を付けることになりました。番号もいいけれど間違いやさいですね。そこで名案がありました。家族の名前を借りることにしたのです。せつこの沢、えいこの沢、よしこの沢などが登場するのです。家族の名が不足すると上川の飲み屋などの女性の名まで使わなくては足りません。同じ名

は使えないからです。国有林の経営図？などにも印刷されていた記憶があります。その名残は現在の地形図にもいくつか残っております。風倒木の処理が終盤に近付くと折角造った路です。使えるものなら他に利用できないかということに発展していくでしょ？これが人間たちの淺知恵とでもいうのでしょうか。

かねがね取り沙汰されていた「大雪山観光道路」の積極的活動です。銀泉台といえばもうすぐハイマツ帯、そしてコマクサ平です。その狙いは大雪山高原を横切って旭岳裾野を越えて勇駒別までバスで走ろうという計画でありました。無用になった林道の活性化ということなのでしょうか。当然、自然保護団体の強い反対で建設は取り止めでした。その名残はロードマップにも長年残されておりました。2002年頃の勇駒別側には道々<212>旭川大雪山層雲峠線とあります。いつでも再開するぞ！という意図だったのでしょう。

1972年にります。降って沸いた大雪山縦貫道建設です。とにかく石狩川側と十勝側を、林道を利用して道をつけよう、オプタテシケ山北の鹿越鞍部をくりぬいて、十勝トムラウシと結ぼうという計画でした。

心ある人々が集まって「大雪の自然を守る会」が結成されたのも当然であります。あちら琴らで北海道の自然が蝕まれていた頃でした。市民の心を一つにして、大雪の自然を守ろうという思いは、やがて計画予定線に沿って、現地をよく知ろうという行動から始まりました。旭川はもちろんのこと、札幌、十勝の有志が集まって、オプタテシケ山の北、鹿越鞍部に集結したのです。大雪縦貫道路現地調査といいました。白金隊と新得隊との出会いは縦貫道反対の意思を確認しあった夜となつたのです（1973年6月7～10日）。これが「大雪の自然を守る会」が生まれるきっかけです。結果は計画の取り下げとなりました。

しかし、新しい地図の上にも未だに道々<718>忠別清水線という名前が、山脈をはさんだ両側に消えないで残っております。

やはりこれから問題のひとつとして考えておく必要があるでしょ。

(さめじま じゅんいちろう)

\*この原稿は大雪と石狩の自然を守る会創立45周年記念  
大雪山フォーラム講演原稿として書かれたものです。

#### 執筆者プロフィール

##### 略歴

- 1926年 東京に生まれる
- 1947年 北海道大学理学部札幌臨時教員養成所卒業
- 1950年 北海道大学理学部植物学科卒業
- 1955年 北海道大学理学部助手
- 1956年 林野庁に出向、林業試験場北海道支場勤務
- 1985年 同試験場を辞職、自然環境室を開設
- 北大山の会会員

##### 主な著書

- 「北の森の植物たち」朝日新聞社 1991
- 「草樹との出会い」北海道新聞社 1995
- 「北方林業-創刊50周年記念-」1999 北方林業会
- 「藻岩山の観音さま」北方林業会 2003
- 「写真で綴る・ミズバショウ日記」北方林業会 2005
- 「回想の風景・札幌」富士コンテム 2007
- 「画文集・北ぐにの花曆」北方林業会 2008
- 「北方林業-創刊65年の点描-」北方林業会 2013、など多数



## 私の風景



### ライチョウ夫婦と 山頂での～んびり

竹田洋子

私が所属しているヨーガ教室の全国大会が富山県立山で開催された。こんなチャンスは二度と無い。本と地図を買い込みいざ北アルプス立山へ。6月22日富山駅より電車、ケーブルカー、バスと乗り継いで立山室堂へ。駅舎から外に出ると開けてビックリ玉手箱、目の前真っ白！雪だらけ。ここでは当たり前のことらしいが、今年はこの10年で1番の残雪だそうだ。

とにかく主峰雄山（3003m）を目指して出発。

コースには細竹が立ててあり分かりやすいが、室堂（2433m）から一の越山荘（2705m）まで雪原をつば足歩き。ここからは岩場の急登。頂上直下ですごく激しい呼吸に。すぐ治ましたが軽い高山病だろうか。山頂からは見渡す限り山だらけ、何列もの稜線がはるかに連なり続いている。初めて見る景色にただただびっくり。北陸地方はきのう入梅、山は嵐だったとか。それがきょうはピカピカの晴天、朝は富士山も見えたそうだ。数人の登山者とイワヒバリに出会い、山頂の雄山神社にお参りして下山。

14時前に宿泊する室堂山荘に到着。入浴後パタリと昼寝。

夕方ミクリガ池散策に出かけライチョウを見かけた。18時夕食。食堂のガラス窓の下部は低木の藪に接していて、なんとカヤクグリが姿を現した。ガラス越しの私をじっとしているからか、まるで気にする様子がない。ふだん見られないでうれしくなってしばらく見ていた。

23日は昼前までしか時間が無ないので薬師岳が見える展望台（今は雪の下）まで登ることにした。ひたすら雪原を登るがちょっと急だからか、きのうの疲れか景色の良いところまでたどり着けないと、左上からヘルメットにピッケル、アイゼンの青年が5人下りてきた。「もう少し上まで登ったら薬師岳が見えますか？」と尋ねると、「見えますけどせっかくここまで登ってきたんだから浄土山に登ったらいいですよ。僕たちのトレースがありますから」と言ってくれた。

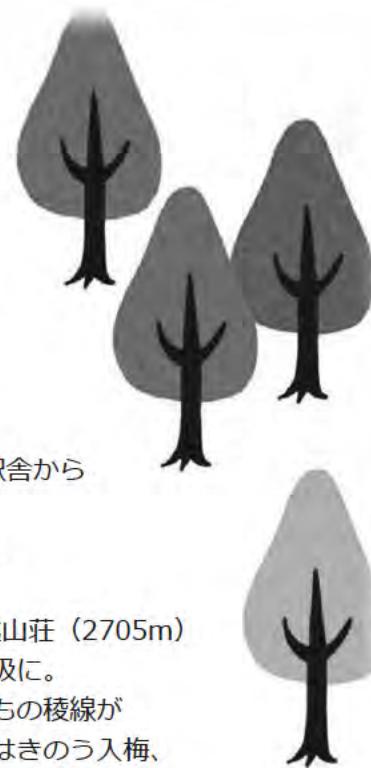
若いイケメンお兄さんにそう言わされたら急に元気百倍「はい、ありがとうございます」と二つ返事。

そこから30分ほど急な岩場を登りながらかなハイマツ帯に出た。山頂に向かって暫く行くと、ライチョウのオスが、続いてメスが現れて私を浄土山山頂（2831m）へと案内してくれた。人間は危害を加えないと思っているのか、空から猛禽類に狙われにくいからか、水を飲んだりのんびりと安心している様子。

ほかに誰もいない山頂でライチョウ夫婦とゆったり静かな時間を過ごした。小半時して下山開始。岩場を過ぎてからは豪快に尻すべり。

あっという間に室堂駅へ。バスに乗って少しすると道路近くにサルの群れ。後で聞いた話ではライチョウのヒナはサルに食べられてしまうことが多いという。私と一緒にいたあのライチョウのヒナがどうか無事育ちますようにと祈っている。

(たけだようこ)



## 3.10 卒業式

第37回ひぐま大学卒業式が、高砂台の扇松園で24名が参加して行われた。長年利用してきた花月会館が閉館したため、今年は新たな会場となった。



卒業証書・修了証書授与の後、渡辺辰夫学長の挨拶、山田雅絵さんの祝辞、鳴海孝一さんの学生代表挨拶等があり、記念撮影をして終了した。卒業証書受領者4名、修了証書受領者2名、特別卒業証書受領者13名。

引き続いて卒業祝賀会が行われ、参加者のスピーチのほか恒例の山田さんご夫妻による琴と尺八の演奏、オークションなどが行われて、楽しいひとときを過ごした。

## 5.20 入学式

第38期ひぐま大学入学式が、13時30分から神楽CCで開催された。今年度の入学者は18名（聴講生1名含む）、男性6名・女性12名。昨年に続き東京から入学者あり、スタッフを喜ばせた。

講座と運営に関するオリエンテーション・安全登山の心得・登山装備・入学者とスタッフの紹介・第1講座の室内セミナー等が行われた。



年間の活動予定は、フィールド講座7講座（特別講座・修学旅行含む）、室内セミナー7講座。それ

短報

## 大雪山講座「ひぐま大学」

に入学式・夏山を語る集い・卒業式が加わる。

### 6.3 第1講座・鬼斗牛山

上川盆地の北端に位置する鬼斗牛山（標高379.3m）。通称、三角山。山名の通り東から眺める姿はピラミダル。連なる突哨山とともに、地域のシンボルとして親しまれている。鬼斗牛山のキトウシは、アイヌ語でギョウジャニンニクが群生する処の意。

天気晴れ。全山雑木林に包まれことのほか静か。山道の側は、スプリング・エフェメラルから初夏の花々へ衣替えの真っ最中。雑木林の新緑がことのほか美しかった。

大雪・十勝の山並みはあいにく雲の中だったが、山頂から見下ろす雄大な上川盆地の田園風景は見事。この界隈ではなかなか見たれない、薄桃色に染まるベニバナやマシャクヤクやカラフトイバラを発見して大喜び。



9:40 登山開始。11:40 山頂。  
14:00 下山。学生9名・スタッフ6名が参加した。

### 6.24 第2講座原始ヶ原

原始ヶ原は富良野岳の南麓、標高1000～1300mに広がる中・高層湿原。山地性湿原の中でも原生的な景観と植生が残る貴重な湿原。現在、大雪山国立公園特別保護地域として保護されている。

ひぐま大学としては、2006年以来の講座で久しぶりの訪問。出発前の天気予報は、すべて雨。覚悟して現地に向かうが、行く先々で雨雲が切れ、降られたのは下山途中のほんの短時間だけ。



布部川の滝コースが通行止めのため不動の滝のみ見学し、後は林道コースを往復。傾斜面に発達した特異な湿原の成り立ちや森の成立について学習。「天使の泉」の水は、やはり抜群にうまい。

8:10 登山開始。10:20 広原の滝。11:20 原始ヶ原。14:00 登山口ニングルの森下山。学生13名・スタッフ8名が参加。

### 7.22 第3講座大雪縦走

お花のゴールデンコース、銀泉台～赤岳～小泉岳～緑岳～高原温泉を縦走。お花畠を堪能する赤岳往復コースも。

早朝5時に旭川出発。曇り空は山へ近づくほどに雨雲に、層雲峡を過ぎる頃にはひとしきり強く。銀泉台到着前に雨具を着用したが、出発すると程なく天気は快方へ。登るほどに青空はぐんぐん広がり、花見山行には絶好の日和に。

コマクサ、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、エゾコザクラ、チングルマ、ハクサンイチゲ…期待に応えてお花は途切れることがない。山上の風がやや強かったが、見晴らしもよく最高の一日になった。7:30 銀泉台出発。赤岳山頂11:30、緑岳14:30、高原温泉16:30着。学生10名・スタッフ11名。



## 4.1 サケ出発式

サケ出発式(10:00~11:30)が、忠別川ツインハープ橋下流左岸で行われた。

前年実施された神楽岡公園の河川敷は、本流の流れが変わり適切な放流場所が確保できなかつたため、急遽変更となつた。

チカラップニアイヌ民族文化保存会と旭川龍谷高校郷土部の協力を得て、カムイノミが実施され、引き続いてサケの稚魚出発式・放流が行われた。今年は保存会の川村兼一會長がカムイノミについて説明、川村力子トアイヌ記念館副館長の川村久恵さんがムックリの演奏を披露した。

家庭や学校、幼稚園などでふ化・飼育されてきた稚魚約4000尾が雪解け水の流れる忠別から日本海を目指して旅立つた。



## 5.12 クリーンウォーク・春

クリーンウォークを兼ねた春の川ぶらぶら散歩が、忠別川で実施された。コースはおびった公共駐車場に集合して、神楽橋～神楽岡公園～忠別川左岸～大正橋～忠別川右岸～神楽橋で行われた。子どもたちを含む26名が参加した。

天気は上々、汗ばむほどの晴天。その陽に映えてヤナギの若葉が、パステル・カラーで川岸を包み美しかった。

収集したゴミは、約6キロの道のりで60リットル袋22個、30リットル袋31個、その他の袋11個だった。ほかに自転車、タイヤ、車ホイル、掃除機、椅子、鞄等々。量的にはプラスティックゴミが多く、マイクロチップが世界的に問題になっているだけに気にな

短報

## さけゼミ・サケの会

った。

投棄場所は橋の下が多い。大正橋下流左岸の急崖に、再び不法投棄が見られた。

ゴミの多さについつい収集に夢中になり、ぶらぶら散歩がどこへやらとなつた。



## 6.16-17 緑の回廊展

あさひかわ自然共生ネットワークが主催する緑の回廊展が、科学館(サイバーラ)で2日間にわたって開かれた。

共生ネットは旭川市を事務局に、市内で環境に関わって活動する市民団体・グループが集まるネットワーク組織。自主事業や情報交換、行政に対する提言活動などをしている。

毎年1回、加盟団体がそれぞれの活動写真パネルを持ち寄って展示し、同時にこの期間に観察会や体験活動を主とするワークショップを開いて市民にアピールしている。外来種セイヨウオオマルハナバチの生体展示(許可取得)も行っている。

これまで背の高い大型のパネル板がひしめいて見づらいなどの問題もあったが、今年は配置等に工夫。



夫が施され見やすくなつた。

守る会とサケの会が共同して行っているサケクイズは、子どもたちに人気がある。

見学者や各参加団体のメンバーを対象に、パネルを用いた活動紹介が両日にわたって行われる。

## 7.7 学習講演会

サケの魅力と生態について学ぶ学習講演会が、神楽CC講座室(13:30~15:30)で行われた。

今年のテーマは、「学ぼう川のはたらき！」。北海道総合研究機構水産研究本部のト部浩一さんが、「川の地形とサケの多様性」について講演した。

同一河川で遡上時期の異なるサケの稚魚が、どうして春先同じ時期に川を下ることができるのか、その不思議がわかりやすく説明された。それはほんの一例で、サケと河川地形の結びつきは、巧妙で驚くようなく仕組みと仕掛けを



持っている。

瀬と淵、本流と分流、河床と中州など、変化に富んだ河川の形状は、多様な水の流れを生み、サケの遡上・産卵・浮上・下降に至る様々な場面で大きな影響を及ぼしている。サケと河川地形の驚くような結びつきに、参加者は目を輝かせた。

多様な産卵群の重要性とその維持機構について深く学ぶことができ、「石狩川を野生のサケのふるさとに」するためにには、なにが必要なのか重要な示唆をいただいた。有意義な学習会だった。

## 5.6 体験入学



場所：突哨山（里山部）

参加者：子供 24 名、STF23 名

GFAJってどんなところかな？まずは実際に活動を体験して知つてもらおうと、里山部代表の清水省吾さんの全面協力を得て実施。参加は、年齢・人数を問わず無料。

今年は突哨山にクマが出没しているため、出遭った時の対処方法の話に始まり、薪割り体験、ロープを使った森での遊び、焚き火体験など、短い時間ながら充実した時間を過ごした。



## 6.9-10 ミニキャンプ

場所：春日青少年の家

参加者：子供 16 名、STF10 名

意外や初めて参加する子供たちが多数。基本に戻って、テントの立て方、薪割り、火おこし、飯ごうを使ったご飯炊き…。基礎技術の体得に熱中した。



もちろん、最大の楽しみは野山の探索。珍しい花や山菜を見つけて大喜び。望遠鏡を使った夜空の星座観察は大人気。

もう一つの隠れた目的は、リーダー研修。初めて参加する子供たちにどう接し、どう対応・指導するか。実践の中で研修する。

画一的な指導にならないように、各自がそれぞれの手法考えて子供たちの中へ入っていく。ベテランスタッフが驚くような、ユニークなアプローチも。今後の活動が楽しみとなった。



## 7.22 川下り

場所：石狩川支流・ルベシベ川

参加者：子供 22 名、STF12 名

朝方、あいにくの小雨。だが、行事を始めるころには青空が広がった。気温も上がり暖かくなつたが、肝心の水は冷たい。そこはさすがに子供たち。大人の尻込みをものともせぬ元気に水に飛び込む。



ゴムチューブによる川下り、魚釣り、着衣水泳の体験…など、日常生活から遠くなりつつある、生きた川との触れ合い。様々な遊びを通して、プールでは味わえないダイナミックな川の姿、そして怖さをちょっとぴり体験。

ライフジャケットの着用指導、危険箇所にロープを張り、子ども一人一人のウォッチング…、正直

スタッフも大変、協力があるからこそできる。



## 8.4-5 冒険キャンプ

場所：21世紀の森

参加者：子供 18 名、STF9 名

虫を追いかけ叢を走り、木にロープをかけてよじ登る。沢登りを決行。夜の森を探索し、温泉につかる。夜の探索でコウモリと出会い、沢登りの途中で魚を捕まえるなど予想していなかった出来事がいくつかあった。三日間にかけてイベントは、さすがに使い道がある。



大人でもなかなかハードな内容だが、子どもたちは楽しみつつあっさりその過程をこなしていく。やはり子どもたちは、想像以上にたくましく、そして好奇心が強い。

今年は三日間とも晴天に恵まれた。お陰で活動範囲も広がった。



連載



ぎいちの  
サケ談義  
(その1)

## サケの増大は「寝る子は育つ」から

3月と云えば旭川付近の川では、そろそろ川底の砂利からサケの稚魚が泳ぎ出す頃ですね。あの見るも無残な水害で、今まで皆さんが努力してきたサケ再生への願いが、どこまでダメージを受けたのかの審判の時でもあり「あっ！ あそこにも、ここにも、真っ黒な稚魚の群が！」の声が聞こえるのを待ちわびる思いです。

川へ泳ぎ出した稚魚は、急流で流れに逆らいながら餌を獲ります。疲れてくると流されて岸に寄り、緩い流れを上ってまた急流に飛び出して餌を獲ります。餌は、流れてくるクモやチョウやアブラムシの落下昆虫、川底に生息していたユスリカ、カゲロウ、トビケラなどの水生昆虫ですが、水生昆虫なら潜ると沢山いる筈なのに、何でわざわざ急流で獲るのでしようか。

川に群っていたサケは、ある日突然海を目指して川を下り始めます。下るタイミングは、おそらく山肌の栄養分を含んだ水が川に流れ込んだ時、沿岸で爆発的に植物プランクトンが発生し、それを餌に大量の動物プランクトンが発生します。そしてそれを餌に小動物が集まり、サケにも危険な魚や動物、鳥類が集まってきます。

そんな環境ではサケは逃げ切るしかありません。そうだ！ 川の急流に逆らって餌を探っていたのは、このときの為のトレーニングだったのに違いありません。体が大きいことも逃げ時には有利な条件です。おそらく砂利の中で動かずにじっと眠っていたのは、運動エネルギー押さえて、体を大きくするためだったのでしょうか。

さて、話は少し飛びますが、北海道のふ化事業は1888年に千歳川にふ化場が建ち、多くのサケが帰ったことで多くのふ化場が建てられ、北海道のふ化事業が行われてきました。ふ化場には湧水が必要ですから、多くは人里離れた山の中で、そこで多くの人が頑張っていました。しかしそんな苦労も報われず、資源は一向に増えませんでした。それが順調に増え出したのは1972年からで、ふ化事業を始めてから80余年後のことでした。



サケが増え出したのは、自然界での多様な生態研究の成果により、技術の革新が行われたためでした。その裏には、戦後に占領軍が行った行政監察の勧告で、いままで要求が叶わなかった研究費が大幅に増額された恩恵によるものでした。その技術の革新のメニューはいろいろありますが、健康で、泳ぐ力の強い、大きな稚魚を、適切な時期に放すことの実践でした。そのために、施設の改善や、器具の考案創作なども行われましたが、中でも健康で大きな稚魚を育てるここと、つまり「寝る子は育つ」は重要な課題でした。しかし、砂利を敷いた池に収容した生まれたての稚魚は、少しでも流れを感じると動き出し、その振動が池全体に広がり動き出すからです。

かと云って水を減らしますと窒息を起こします。その改善のために設備や器具・機材が考案されて眠る池に近づけることが来たのですが、未だ自然の寝床には追いつくことが出来ません。

今、旭川では自然産卵保護が行われ、豊平川では自然産卵魚を主にした調整放流が始まっています。このような天然の産卵床を活用することは、これまでの人工ふ化の限界を補完することであり、今後の保護技術を示唆するものとして注目されているのです。

(木村義一 元・千歳サケふるさと館長)



# 大規模林道跡地調査



【参加者】  
大雪と石狩の自然を守る会  
沓澤克嘉 関口隆嗣  
寺島一男 渡辺辰夫  
北海道自然保護協会  
在田一則 反橋一夫  
宮坂省吾  
【日 程】  
7月1日  
旭川…白滝(道の駅・集合)  
…白滝滝上区間(滝上側)  
…白滝滝上区間(白滝側)  
宿泊:白滝・山の家  
7月2日  
白滝…白滝丸瀬布区間(白滝側)  
…白滝ジオパークセンター・解散)…旭川



【参加者】  
大雪と石狩の自然を守る会  
加藤千恵子 畠澤克嘉  
竹田洋子 田中弘子  
寺島一男 宮本紀子  
渡辺辰夫  
北海道自然保護協会  
在田一則 佐藤謙  
反橋一夫 谷岡隆  
宮坂省吾  
十勝自然保護協会(8/3のみ)  
及川裕 中村廣治  
【日 程】  
8月2日  
旭川…平取(振内・集合)…  
平取新冠区間…静内三石区間…様似えりも区間(様似側)  
宿泊:様似・弁慶  
8月3日  
様似…様似えりも区間(えりも側)…森林基幹林道…襟裳岬(解散)…旭川

## お薦めBOOK



著者:梅沢 俊  
出版:北海道新聞社  
定価:本体 3600 円+税

北海道の山野を楽しむ人のバイブル“梅しゅん図鑑”。その最新作が出ました。

これまでのエングラー分類体系から大きく踏み込んで、新しい分類体系のAPG体系に拠っています。

従来のわかりやすい解説に加えて、写真からの引き出し線を多用して、さらに視覚的に理解できるよう工夫されています。

この労作が、新たな知的好奇心を引き起こすことを期待し、心からお薦めします。

### サケとヒグマの関わりとは 道総研の間野勉さんが講演



研究結果のグラフなどを示しながら専門的な内 容も分かりやすく話した間野さん

北海道の冬はアラスカ湾へ移動する。何度か繰り返して成長し、ベーリング海とアラスカ湾の冬はアラスカやカムチャツカに近づく。そこで「ペルクマンの法則」に従って、「北海道の冬はアラスカ湾へ移動する」と説いていた。間野さんは世界のヒグマの大ささについて、「動物は寒冷な地域に行くほど大きい傾向がある」という「ペルクマンの法則」にあてはまっておらず、アラスカやカムチャツカに近づくとです」と伝えていた。



### 編集 MEMO

- 猛暑が半月以上続いたお盆過ぎ、大雪山の黒岳と旭岳で初雪が山頂を白くした。
- 异常に頻繁に起これば“正常”になる。時間的にも空間的にも自然を見つめる、大きな物差しが欠かせなくなったということなのであろう。
- 人間に都合のいい物差しを多用して、自然(地球)を改変してきたツケの現れであること、しっかりと心に刻みたい。
- 45周年を振り返って、改めて運動は人との出会いであることを思った。その心に残る多くの人々は、すでにこの世にいない。おい、ちゃんと伝えているかと、天からの声が聞こえそうである。
- 高齢化社会になって、様々なところから後継者不足の声が聞かれる。私たちの会も同様である。だが人は育てるものではなく、育つものの、人を探す運動ではなく、人を巻き込む運動をどう続けるか改めて心したい。(て)

# 2018 定期総会報告

4月28日、神楽CC講座室で2018年度の定期総会が開催されました。則末尚大さんを議長に、活動・決算・監査報告、活動計画・予算の審議が行われ、新年度の役員が選出されました。45周年を迎えて、新たな運動の展開が決意されました。



## 2017年度活動報告

### A 大雪山に関する取り組み…大雪山国立公園の高山環境・森林環境・生物多様性等を保全する活動

1	世界遺産に関する取り組み	① 第19回大雪山フォーラム「大雪山を世界遺産に」の開催 45周年記念事業として講演とトークで実施 ▶講演「知床の自然から」午来昌さん ▶トーク「大雪山の自然を語る」鮫島惇一郎さん・及川裕さん ② 大雪山と世界遺産に関する学習と研究 ▶文献・資料など情報収集 ▶あさひかわジオパークの学習会に参加情報収集 ▶上川町自然遺産構想の情報収集「上川アイヌと大雪山」 ③ 関係行政機関と話し合い要請・提言	30-2/24  随時 随時 12/3 随時
2	高山帯に関する取り組み	① 高山帯パトロール活動の実施 ▶ひぐま大学の予察及び講座で実施 ▶GFAの登山予察および本番で実施 ▶マルハナ市民ネットワーク、パークボランティア等の活動の参加時に実施 ② 大雪山における外来種セイヨウのモニタリングと情報収集 ▶上川総合振興局主催モニタリングに参加 ③ 大雪山における登山道トイレ・踏み荒らし等に関する情報交換 ▶表大雪山岳関係者情報交換会 ▶山のトイレに関しての情報交換 ▶高山植物保護ネットとの情報交換 ▶大雪山国立公園松仙園地区利用適正計画協議会への参加 ④ 大雪山における外来種セイヨウのモニタリング ▶ひぐま大学GAFにおける予察・フィールド講座時に実施 ▶登山に通じる主要道路等における花資源調査 ▶上川総合振興局主催モニタリング活動への参加	ひぐま大学 14回 2回 随時  随時  6/13.12/13 随時 随時 30-1/15  7回 7/16.8/3.17.18 随時
3	森林帯に関する取り組み	① 森林・林道開発に関する情報収集と監視活動 ▶ひぐま大学 GAFにおける予察およびフィールド講座時に実施 ② 森林生態系保護地域におけるパトロール活動 ▶上川中部森林管理署による大雪山森林生態保護地域ボランティア巡視員制度への巡視員として登録参加 ③ 大規模林道事後調査 大雪山系から外れるが継続調査のため3路線を対象として	7回  5/26.7/29. 30-2/27 天候・日程の関係で実施できず

4	地熱開発に関する取り組み	① 白水沢地熱発電に関する現地視察と情報の収集	林道荒廃で中止 2/1  実施無し  隨時  30-2/1
		② 上川町および開発業者との話し合い ▶石油天然ガス金属鉱物資源機構による大雪山高原地区調査について	
		③ 地熱発電に関する学習と啓発活動の普及	
		④ トムラウシ地域における取組との連携 ▶十勝自然保護協会との情報交換	
		⑤ 高原温泉地域での試掘に関する情報への対応 ▶有望地域の絞り込み調査が予定されているため、試掘中止要望を環境省(自然保护官事務所)に伝える	

## B 石狩川に関する取り組み…石狩川水系上流部の河川環境の保全と回復を図る活動

1	サケに関する取り組み	① サケゼミナーの開催とサケの飼育活動 ▶サケゼミナー…2回 ▶発眼卵配布…飼育会員 21名(団体 9)、7000粒 ▶サケを迎えるカムイチエブノミ ▶サケの出発式・カムイチエブノミ(ツインハーブ橋左岸下流)	12/3, 30-1/28 12/17 9/24 30-4/1  11/5, 11/23 12/17 30-1/25, 3/8, 4/3  10/5 、 10/19 、 10/26 、 11/6 、 11/13, 11/16  8/1	
		② 市民のためのサケ読本(改訂版)の制作(資金不足)		
		③ サケ人工産卵床造成と受精卵埋設およびモニタリング ▶人工産卵床造成…2回 ▶受精卵埋設…1回 ▶モニタリング…2回		
		④ サケ産卵床とホッチャレ調査 ▶産卵床調査・ホッチャレ調査…6回 (11/12 雨天中止)		
		⑤ 平成 29 年度さけます報告会 ▶北海道区水産研究所(ホテルライオート札幌)…2名		
2	河川環境に関する取り組み	① 河畔林の連続性、河川生物保全に関する取り組み ▶石狩川上流川づくり懇話会 ワークショップ ヒアリング…5回 ▶忠別川環境視察(河川事務所・忠別川の親しむ会と協働)…5名	6/7~30-3/9 8/28  4/20、1/8、2/20、 5/20  7/11, 11/24 10/10  10/30(降雪中止)  4/20 5/20 5/29 12/11	
		② 河川工事、河川環境等の監視活動 ▶八千代川改修工事…3回 ▶ポン川工事泥土処理工事…1回 ▶河川敷排雪場造成…2回 ▶橋脚補強工事説明…1回		
		③ 石狩川の湧水・伏流水の調査		
		④ 関係行政機関との話し合い 要請・提言・協働(必要に応じて) ▶八千代川改修工事…上川総合振興局・旭川建設管理部 ▶環境4団体と旭川河川事務所と情報交換会 ▶ポン川工事視察現地打合せ(旭川河川事務所) ▶忠別川右岸 排雪場予定地 植生調査の報告…旭川市		
		① 春の川ぶらぶら散歩(サケの会と協働)		4/29 13名
		② サケを迎える石狩川クリーンウォーク・忠別川(サケの会と協働)		5/26 23名
		③ 石狩川講座「かわせみ大学」 ▶雨紛川のほとりを歩く…15名 ▶美瑛川を歩こう…7名		8/5 10/22
		④ サケと川の写真展 公民館 自然共生ネットとの協働 ▶緑の回廊展 あさひかわ自然共生ネット主催 科学館サイバル ▶神楽市民交流センター祭り…神楽 CC 主催(神楽交流センター) ▶CoCoDeまつり…主催 旭川市民交流活動センター(CoCoDe)		6/24~25 10/7~8 11/3

	<p>►まなびピア展…主催旭川教育委員会(市民文化会館)</p> <p>⑤ 大雪と石狩の自然を守る会活動写真展 ►45周年の歩みと活動展 神楽CC主催 神楽交流センター</p> <p>⑥ サケ案内人養成講座およびサケ見学市民現地ガイド ►サケ案内人養成講座…座学と現地実習(神楽CC・忠別川) ►サケガイド…10月土・日・祭、8回(忠別川ツインハーブ橋付近)</p> <p>⑦ カムイチエブノミ・サケを迎える集い(アイヌ民族文化保存会等の協働) ►カムイチエブノミ…125名 ►サケを迎える集い…60名</p> <p>⑧ 学習講演会と現地学習会(サケの会との協働) ►サケとひぐまが繋ぐ森と海 講師 間野勉さん 神楽CC…65名 ►学ぼう川の働き…講師 長坂晶子さん(神楽CC)…26名 ►サケのふるさとを訪ね(ウヨロ川・千歳水族館)…62名 ►サケのトバ作り(神楽CC)…71名 ►おいしいサケクッキング(神楽CC)…35名</p>	30-2/10~11 30-2/24 8/26 10/1~29 30-4/1 9/24 30-2/3 7/23 10/29 11/12 11/18
--	---	---

### C 身近な自然に関する取り組み…上川盆地の身近な自然生態系と生物多様性を守る活動

1	地域の緑地に関する取り組み	<p>① 市内緑地公園に関する調査・学習活動 ►常磐公園の緑に関する観察(公園みどり課・常磐公園の自然を考えるなかま協働) ►神楽岡公園樹木観察(旭川森と川ネット21と協働) ►春光台公園に関する学習調査(ミズバショウ保存復元検討会と協働)</p> <p>② 近郊緑地モニタリング活動 ►春光台公園ミズバショウ全株調査(ミズバショウ保存復元検討会と協働) ►美瑛川フットパス「かわせみの小径」整備(森と川ネット21・河川事務所との協働)</p> <p>③ 関係行政機関との話し合い、要請、提言 ►常磐公園の環境について(市公園みどり課協働) ►常磐公園の緑を考える集い・参加提言(市公園みどり課主催) ►環境4団体による河川事務所と情報交換(河川事務所) ►忠別川環境視察(河川事務所、忠別川の親しむ会協働)</p>	5/24.10/17.24 30-3/23 4/17、25.6/20、9/10、4/25 5/8.29.6/5.9/2 9/5.10/17.1/16-6/24.11/25.3/24 5/25 10/17
		<p>① セイヨウの定点観察(マルハナ市民ネットと協働) ►突哨山(5区間定点4ヶ所)</p> <p>② セイヨウ花資源調査(マルハナ市民ネット協働) ►旭岳温泉線(東川湧水公園起点) ►上川町旭ヶ丘(大雪森のガーデン) ►十勝岳温泉線(日の出公園分岐起点) ►美瑛白金街道(美沢橋起点)</p>	4/27.5/2.11.18 5/25 7/6 8/3 8/17 8/28
		<p>③ 外来種学習会、セイヨウ捕獲法(マルハナ市民ネットと協働) ►市民対象の捕獲体験と学習会(旭川リサーチセンター) ►情報交換会、調査データー交換(神楽CC)</p> <p>④ セイヨウ一斉防除・モニタリング活動(上川総合振興局と連携)。 ►東川町羽衣公園 ►上富良野町日の出公園 ►対策連絡会議</p>	7/22 27名 11/25 7/6 9/10 30-2/20
2	外来生物に関する取り組み		

3	地域づくりに関する取り組み	① 地域まちづくり計画における参加・提言 ▶あさひかわゴミポイ捨てキャンペーンの参加 ▶市庁舎と旭川の未来を考える市民連絡会への参加提言	4/23.9/24
		② 公民館活動との連携協力 ▶神楽市民交流センターまつりに参加 パネル展示 ▶神楽 CC お試し講座「サケの美味しいクッキング」	10/7.8 11/18 35名
		③ あさひかわ自然共生ネット・突哨山運営会議等との連携 ▶あさひかわ自然共生ネット運営連絡会議(市保健所棟) ▶緑の回廊展参加(科学館) ▶突哨山運営会議(市職員会館)・現地検討会(突哨山)	.
		④ 旭川市教育委員会主催行事に参加 ▶第 27 回まなびピアパネル展示で生態展示(市文化会館)	6/24.25 30-2/10.11

#### D 環境教育・普及に関する取り組み…地域から地球まで生命を大切にする環境教育活動

2	市民講座に関する取り組み	① 大雪山講座「ひぐま大学」の開講と紀要「カムイミンタラ」の発行 ▶入学式(ときわ市民ホール) 卒業式(扇松園) 室内セミナー…7回 フィールド講座…6回 修学旅行(1泊2日) 反省会 ▶紀要・カムイミンタラ 37号発行	5/21 30-3/10 5/21~30-1/20 5/28~30-1/24 7/16.17 11/18 30-3/10
		② 石狩川講座「かわせみ大学」の開講 ▶フィールド講座…2回	8/5. 10/22
		③ 自然学園「グリーンフォーラム旭川」の開校 ▶入学式(ときわ市民ホール) ▶修了式(嵐山) ▶例会行事…9回 ▶ファミリーフォーラム…10回(ときわ市民ホール)	4/16 30-3/4 5/14~30-2/27
		① 会報「ヌタブカムシペ」の発行…2回 160.161号 ▶ヌタブカムシペ・ニュースレーター 1号発行	10/1 30-4/ 9/15
		② 紀要「カムイミンタラ」 第 37 号発行(45 周年特集)	30-3/10
		③ 旭川市環境アドバイザーの活動 ▶講義・講演 公民館百寿大学・女性学級、シニア大学など ▶環境学習研修会 日本製紙(株)旭川工場見学	9/12
		④ サケ出前講座…2回(保育園) ⑤ 緑の回廊展 あさひかわ自然共生ネット	6/24.25
		⑥ 神楽市民交流センターまつり 神楽 CC ⑦ まなびピア(旭川市教育委員会) 市文化会館	10/7.8 30-2/10.11
		⑧ CoCDe まつり(旭川市民活動交流センター) ⑨ 45周年活動の歩み展(神楽 CC)	11/3 4/2~4/20



3 組織・連携に関する取り組み	① あさひかわサケの会との連携活動	■野生サケ回復のための活動(水質・川環境・河畔の清掃等) ■子供たちの情操教育のためのサケの里親による飼育 ■サケ遡上を生かした市民啓蒙活動	随時
	② 大雪山マルハナ市民ネットとの連携活動	■セイヨウマルハナバチの市民啓蒙活動 ■高山帯侵入予防のための路線花資源調査 ■行政関連団体との協働による防除活動	随時
	③ 北海道自然保護連合との連携活動	■連合代表者会議(札幌Lプラザ) ■北海道自然保護団体交流会…7 団体 17 名(手稻パラダイスヒュッテ)現地見学…石狩湾新港周辺の風力発電の現状視察	5/27 9/2~3 9/3
	④ 北海道サケネットワーク	■サケネット総会(札幌Lプラザ) ■北海道サケ会議…テーマ「サケマス資源の展望」 ■ニュースレター発行(守る会編集担当)51号～54号 4回	5/27 5/27 4/1、7/1、10/1、1/5
	⑤ 塚原雑木林を守る会(神奈川県)	■旭川45周年・塚原15周年相互訪問交流	30-2/24～25、3/10
	⑥ 他自然環境活動提携団体	■旭川ジオパークの会、あさひかわ自然共生ネットワーク、突哨山運営協議会、旭川森と川ネット 21、忠別川の自然に親しむ会、ガイア 21、常磐公園の自然を・考えるなかまなど ■旭川市内環境団体合同望年会(トヨーホテル)	8/1 12/9
			随時

#### E 45周年に関する取り組み…45周年実行委員会編成

1 45周年記念誌の発行	① 「カムイミンタラ」37号を特集号に45年の活動記録をまとめる ■お祝いメッセージ収録 ■実行委員会立ち上げ ■45周年記念誌原稿の依頼	3/10 発行 23本 30-1/1 12/15
2 記念式典・祝賀会の取り組み	① 45周年記念式典・記念講演・大雪山フォーラム・祝賀会の実施 ■記念講演「知床の自然から」講師：午来昌さん ■スライド活動報告「気が付ければ45年守る会の歩み」報告：寺島一男 ■第19回大雪山フォーラム テーマ「大雪の自然を語る」語る人：鮫島惇一郎さん・及川裕さん ■活動パネル写真展「守る会45年の歩み」 ■記念祝賀会(コートホテル・レストランプリミエール)	30-2/24、123名  2/24、54名



2018 ひぐま大学修学旅行 (ニセコアンヌプリと神仙沼)



2018 石狩川ぶらぶら散歩・クリーンウォーク (忠別川)

## 2018年度活動計画

### A 大雪山に関する取り組み

……大雪山国立公園の高山環境・森林環境・生物多様性等を保全するため、次の活動を行う

1	世界遺産に関する取り組み	①第20回大雪山フォーラムの開催 ②大雪山と世界遺産に関する学習と研究 ③関係行政機関と話し合い・要請・提言（必要に応じて）
2	高山帯に関する取り組み	①高山帯パトロール活動の実施（ひぐま大学・登山道関係者情報交換会・北海道高山植物保護ネットと連携） ②大雪山における外来種セイヨウのモニタリングと情報収集
3	森林帯に関する取り組み	①森林・林道開発に関する情報収集と監視活動 ②森林生態系保護地域におけるパトロール活動 ③大規模林道事後調査（※大雪山系から外れるが継続調査のため。3路線対象）
4	地熱開発に関する取り組み	①白水沢地熱発電に関する現地視察と情報の収集 ②上川町及び開発業者との話し合い ③地熱発電に関する学習と啓発活動の普及

### B 石狩川に関する取り組み（あさひかわサケの会と協働）

……石狩川水系上流部の河川環境の保全と回復をはかるため、次の活動を行う。

1	サケに関する取り組み	①さけゼミナールの開催とサケの飼育活動 ②市民のためのサケ読本（改訂版）の制作 ③サケ人工産卵床造成と受精卵埋設及びモニタリング ④サケの産卵床およびホッチャレ調査
2	河川環境に関する取り組み	①河畔林の連続性・河川生物保全に関する取り組み（行政と連携） ②河川工事・河川環境等の監視活動 ③石狩川の湧水・伏流水調査 ④関係行政機関との話し合い・要請・提言・協働（必要に応じて）
3	市民向けイベントの取り組み	①春の川ぶらぶら散歩 ②サケを迎える石狩川クリーンウォーク ③サケと川の写真展（旭川市、自然共生ネット、公民館、CoCoDe等の各展示） ④サケ案内人養成講座および市民現地ガイドの実施 ⑤カムイチエブ・ノミ及びサケを迎える集い（アイヌ文化保存会等との協働） ⑥サケ学習とサケクッキング、トバズくり ⑦サケのふるさとを訪ねて

### C 身近な自然に関する取り組み

……上川盆地の身近な自然の生態系と生物多様性を守るために、次の活動を行う。

1	地域の緑地に関する取り組み	①市内緑地公園に関する調査、学習活動 ②近郊緑地のモニタリング活動 ③関係行政機関との話し合い・要請・提言（必要に応じて）
2	外来生物に関する取り組み	①セイヨウの定点観察（マルハナ市民ネットと協働） ②セイヨウ花資源調査（マルハナ市民ネットと協働） ③外来種学習会、セイヨウ捕獲法（マルハナ市民ネットと協働） ④セイヨウ一斉防除・モニタリング活動（上川総合振興局と連携）
3	地域づくりに関する取り組み	①地域・まちづくり計画における参加・提言 ②公民館活動との連携・協力 ③あさひかわ自然共生ネット、突哨山運営協議会等との連携

## D 環境教育・普及に関する取り組み

……地域から地球まで生命を大切にする環境教育を実践し広げるため、次の活動を行う。

1	市民講座に関する取り組み	①大雪山講座「ひぐま大学」の開講と紀要「カムイミンタラ」の発行 ②石狩川講座「かわせみ大学」の開講 ③自然学園「グリーンフォーラム旭川」の開校
2	普及・啓発に関する取り組み	①会報「ヌタブカムシペ」の発行 ②市民学習会「ちゃらんけ」の開催 ③旭川市環境アドバイザーの活動 ④緑の回廊展・学びピア展・CoCoDe 祭・公民館交流祭り展等に出演
3	組織・連携に関する取り組み	①あさひかわサケの会、大雪山マルハナバチ市民ネットとの連携活動 ②加盟・提携団体との交流及び連携活動（北海道自然保護連合、北海道さけネットワーク、旭川・森と川ネット 21、端数倶楽部ほか）

## 2017 年度収支決算 (2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■
	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■

## 2018年度予算 (2018年4月01日～2019年3月31日)


## 2018年度役員

No.	役 職	氏 名	No.	役 職	氏 名
1	代 表	寺島一男	13	運 営 委 員	相馬 勉
2	副 代 表	田中弘子	14	"	西元 徹
3	事 務 局 長	竹田洋子	15	"	橋詰 郁朗
4	事務局次長	西畠智光	16	"	平山沙織
5	会 計 長	細川広子	17	"	山田千代美
6	会 計 監 査	岡本賢二	18	"	横田裕司
7	"	則末尚大	19	"	渡辺辰夫
8	運 営 委 員	狗飼友子		名 譲 会 員	
9	"	沓沢克嘉	No.	役 職	氏 名
10	"	東海林 優	1	名 譲 会 員	林美枝子
11	"	城 聰 美	2	"	上岡知子
12	"	関 口 隆 翳	3	"	野田 勇

## 活動の記録

<2018.1~7>

### 1月

- 05 北海道サケネットワーク N L 54 発行  
NHK 新日本風土記「石狩川」放映（出演）  
09 GFA・FF（ときわH）  
10 守る会新年会（新華樓）  
11 中央公民館百寿大学講義（寺島、中央公民館）  
45周年実行委員会（神楽CC）  
13 GFA 冬のお泊まり会（～15日、21世紀の森）  
「カムイミンタラ」編集会議（校正、神楽CC）  
14 ひぐま大学予察（1回目・伊納山）  
15 森と川ネット 21例会（渡辺、神楽CC）  
サケの会世話人会（神楽CC）  
16 石狩川上流川づくり懇談会ワーキング（寺島、合同庁舎）  
17 ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
19 自然共生ネットワーク 15周年記念誌編集会議（寺島、造洲庵）  
ジオカフェ講演（寺島、科学館）  
21 ひぐま大学予察（2回目・伊納山）  
23 自然共生ネット運営会議（市保健所棟）  
24 ひぐま大学室内セミナー（神楽CC）  
25 サケモニタリング（石狩川栄園橋上流）  
27 「カムイミンタラ」37号編集会議（校正、神楽CC）  
28 ひぐま大学第11講座（伊納山）  
ボテトTV出演（寺島、サケの現況）  
29 サケ放流予察（忠別川）  
サケ臨時世話人会（神楽CC）  
30 常磐公園生態系調査報告（寺島、公園の自然を考えるなかま・神楽CC）

### 2月

- 01 JOGME 高原温泉ヒートホール調査説明（神楽CC）  
03 サケの会会員会議・記念講演（講師・間野 勉さん、神楽CC）  
04 GFA 冬遊び（東鷹栖）  
08 45周年第2回実行委員会（神楽CC）  
09 まなびビア展パネル搬入掲示（市文化会館）  
10 まなびビア展（～11日、市文化会館）  
11 まなびビア展パネル撤収（市文化会館）  
千代田市民委員会女性部会講演（寺島、観音台・雪の屋）  
13 サケ出前授業（当麻留守家庭児童会、当麻公民館）  
14 守る会運営委員会（神楽CC）

- 19 森と川ネット 21例会（渡辺、神楽CC）  
サケの会世話人会（神楽CC）  
20 サケ出前授業（いずみこども園）  
21 45周年記念パネル制作（CoCoDe）  
22 月刊「メディア旭川」取材（寺島、守る会のあゆみ、神楽CC）  
24 守る会 45周年記念フォーラム（大雪クリスタルホール）・記念祝賀会（Rブリミエール）  
25 塚原雑木林を守る会交流スノーハイク（相楽・内藤・佐藤・越野さん来旭、嵐山）  
27 第2回大雪山ボランティア巡回会議（中部森林管理署）  
GFA・FF（ときわH）  
28 守る会運営委員会（神楽CC）

### 3月

- 03 雪の降る町発表会講演（寺島、木楽輪）  
04 GFA 修了式（嵐山）  
06 自然共生ネットワーク 15周年記念誌編集会議（寺島、造洲庵）  
07 大雪山国立公園協働型管理運営体制ワークショップ（寺島・渡辺・閑口・上川総合振興局）  
守る会運営委員会・ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
08 サケ人工産卵床モニタリング（石狩川・栄園橋上流）  
10 第37回ひぐま大学卒業式（扇松園）  
塚原雑木林を守る会 15周年記念事業（寺島・閑口出席、南足柄市）  
14 守る会運営委員会（神楽CC）  
15 まちなか文化小屋講演（寺島、まちなか文化小屋）  
17 フットバス愛好会総会（解散決定、市生活館）  
19 サケの会世話人会（神楽CC）  
自然共生ネットワーク運営会議（市保健所棟）  
20 ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
21 ボン川サケ放流体験（忠別川の自然に親しむ会に協力、忠別川・ツインハープ橋）  
23 第3回常磐公園の緑を考える集い（渡辺、市第3庁舎）  
25 愛別サケ放流式（寺島、渡辺・閑口参加、愛別川）  
28 守る会運営委員会（神楽CC）  
31 サケ出発式準備（忠別川・ツインハープ橋）

### 4月

- 01 第35回サケ出発式・カムイノミ（忠別川・ツインハープ橋）  
45周年記念パネル展パネル搬入掲示（神楽CC）  
02 45周年記念パネル展（～4月20日、神楽CC）

- 03 マルハナネット世話人会議（神楽CC）  
ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
09 サケの会世話人会（神楽CC）  
11 守る会運営委員会（神楽CC）  
16 森と川ネット 21例会（渡辺、神楽CC）  
18 守る会運営委員会（神楽CC）  
20 45周年記念パネル展パネル搬入掲示（神楽CC）  
21 フットバス愛好会解散式（Rブリミエール）  
22 旭川市ゴミポイ捨て禁止運動（渡辺、JR旭川駅前広場）  
マルハナバチ市民ネット総会・学習会（講師・山本亜生さん、神楽CC）  
25 守る会運営委員会（神楽CC）  
26 セイヨウ定点観察（突哨山）  
28 2018年守る会度定期総会（神楽CC）

### 5月

- 01 マルハナネット世話人会（神楽CC）  
02 セイヨウ定点観察（突哨山）  
06 GFA 体験入学（突哨山、里山部）  
セイヨウ監視活動 2018（上川総合振興局、東川羽衣公園）  
07 春のぶらぶら散歩・クリーンウォーク予察（忠別川・北彩都）  
08 自然共生ネットワーク 15周年記念誌編集会議（寺島、造洲庵）  
09 ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
10 セイヨウ定点観察（突哨山、ヒグマ出没のため中止）  
12 春のぶらぶら散歩・クリーンウォーク（忠別川・北彩都）  
13 北海道自然保護連合代表者会議（エルプラザ・札幌）  
14 カワセミの小径ごみ拾い（森と川ネット、美瑛川）  
サケの会世話人会（神楽CC）  
16 石狩川上流川づくり懇談会現地視察（寺島、美瑛川）  
守る会臨時運営委員会（神楽CC）  
20 ひぐま大学入学式（室内セミナー、神楽CC）  
21 突哨山運営協議会総会（市職員会館）  
22 守る会運営委員会（神楽CC）  
24 旭川市北星公民館ひまわり学級講演（寺島、北星公民館）  
26 北海道サケネットワーク総会・北海道サケ会議（神楽CC）・交流会（Rブリミエール）  
27 北海道サケネットワーク現地見学会（忠別川・北彩都・博物館）  
ひぐま大学予察（鬼斗牛山）  
28 環境省上川自然保護官事務所協議（寺島、神楽CC）

### 6月

- 01 45周年記念活動パネル展（～29日、中央図書館ギャラリー）  
05 マルハナネット世話人会（神楽CC）  
06 ひぐま大学運営会議（神楽CC）  
08 石狩川上流川づくり懇談会ヒヤリング（寺島、合同庁舎）  
09 GFA ミニキャンプ（～10日、春日青少年の家）  
11 サケの会世話人会（神楽CC）  
13 河川事務所現地視察（寺島、忠別川・北彩都）  
14 自然共生ネットワーク緑の提言書提出（寺島、市総合庁舎）  
15 緑の回廊展パネル搬入掲示（科学館）  
16 緑の回廊展（～17日、科学館）  
20 ひぐま大学室内セミナー（神楽CC）  
22 ボン川・八千代川河川改修計画説明（北海道建設管理部、神楽CC）  
24 ひぐま大学第2講座（大雪山・原始ヶ原）  
25 平成30年度セイヨウ対策連絡会議（寺島・渡辺、上川総合振興局）  
27 守る会運営委員会（神楽CC）  
28 45周年活動パネル展パネル搬入掲示（旭川中央図書館）

### 7月

- 01 大規模林道跡地調査（～2日、北海道自然保護協会、滝雄厚和線）  
07 学習講演会・学ぼう川の働き（神楽CC）  
08 石垣山山開き（愛別町、石垣山）  
09 サケの会世話人会（神楽CC）  
10 サケネットワーク N L 56号発行  
11 守る会運営委員会（神楽CC）  
14 セイヨウ捕獲体験・現地学習会（マルハナ市民ネットワーク、旭川市リサーチセンター）  
15 ひぐま大学室内セミナー（神楽CC）  
旭川市ジオパーク推進協議会について説明・協議（寺島、神楽CC）  
22 ひぐま大学第3講座（赤岳・小泉岳・綠岳）  
25 守る会運営委員会（神楽CC）  
30 突哨山運営協議会（寺島、市職員会館）

※サケ関係の行事は「サケの会」と、セイヨウ関係は「マルハナネット」ととの共同で実施しています。

9.24(月)

## カムイチエブ・ノミ

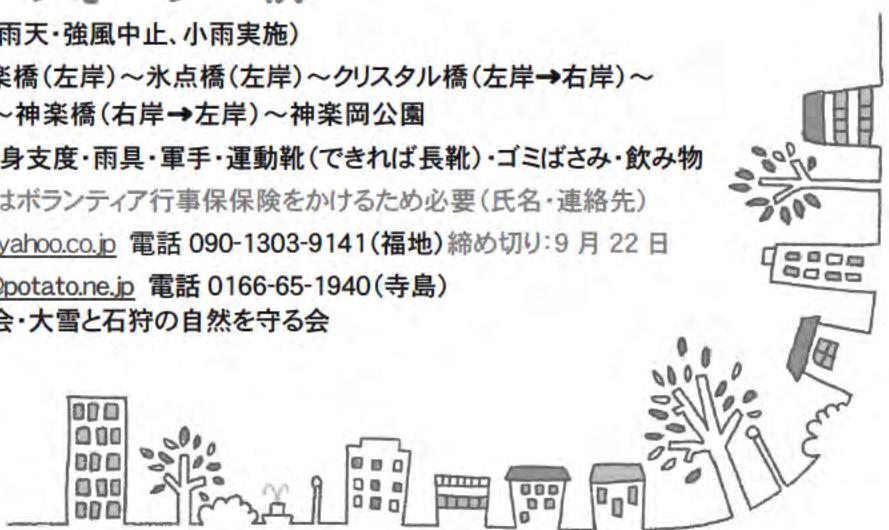
- ◆時 間… 10:00~11:30 (雨天・強風中止)
- ◆会 場… 神楽岡公園(忠別川河川敷)
- ◆内 容… カムイチエブ・ノミ、ムックル演奏  
サケ神輿、サケ〇×クイズ、石狩鍋試食会
- ◆参加費… 無料

## 石狩川クリーンウォーク・秋

- ◆時 間… 12:30~15:00 (雨天・強風中止、小雨実施)
- ◆コー ス… 神楽岡公園～神楽橋(左岸)～氷点橋(左岸)～クリスタル橋(左岸→右岸)～北彩都橋(右岸)～神楽橋(右岸→左岸)～神楽岡公園
- ◆持ち物… 野外活動のできる身支度・雨具・軍手・運動靴(できれば長靴)・ゴミばさみ・飲み物
- ◆参加費… 無料 ※申し込みはボランティア行事保険をかけるため必要(氏名・連絡先)
- ◆申込先… E-mail [fnjwp883@yahoo.co.jp](mailto:fnjwp883@yahoo.co.jp) 電話 090-1303-9141(福地) 締め切り: 9月 22 日
- ◆連絡先… E-mail [tera2112@potato.ne.jp](mailto:tera2112@potato.ne.jp) 電話 0166-65-1940(寺島)
- ◆主 催… あさひかわサケの会・大雪と石狩の自然を守る会



## ご案内



9.30(日)

- ◆集 合… 08:40 大雪アリーナ前(神楽 4 条 7 丁目)
- ◆解 散… 17:00 同上場所
- ◆行き先… 増毛町・暑寒別川
- ◆見学先… 暑寒別川・箸別川、増毛秋の味まつり会場、國稀酒造
- ◆定 員… 45 名 (小学生以下は保護者同伴)
- ◆参加費… 一般 2500 円、会員 2000 円、中・高生 1500 円、小学生以下無料  
(参加費は、往復バス料金・資料代・保険料を含んでいます)

## サケのふるさとを訪ねて 増毛・暑寒別川を見学 !



- ◆持 ち 物… 野外活動のできる身支度、雨具、筆記具、昼食、おやつ、飲み物など。  
(昼食は、秋の味まつり会場でとります)
- ◆荒天対策… 雨天実施(台風など特別な荒天のときは中止)
- ◆申込み先… 電話 090-1303-9141(福地) E-mail: [fnjwp883@yahoo.co.jp](mailto:fnjwp883@yahoo.co.jp)  
氏名(ふりがな)・性別・生年月日(保険)・住所・連絡先電話
- ◆申込期間… 9月 15 日～27 日 (定員になり次第締め切り)
- ◆問合せ先… 電話 0166-65-1940(寺島) E-mail: [tera2112@potato.ne.jp](mailto:tera2112@potato.ne.jp)
- ◆主催団体… あさひかわサケの会・大雪と石狩の自然を守る会